

第2章 研修概要

1. 全体概要

本研修において、今年度は地方自治体職員、NPO等の職員30名(うち2名においては余儀ない事情により途中辞退)が参加した(本研修へ34名の応募があり、選考の結果30名を選定)。

本研修は「事前研修」「実地研修」「事後研修」の3部構成となっている。

「事前研修」では、専門性を有する講師より、アウトリーチや社会資源の活用に係る知識の向上を主目的とした講義と演習を実施した。

「実地研修」では、各研修生がそれぞれ受入団体12か所へ赴き、支援現場の実務を通じて、当事者対応での技法やノウハウの習得、アウトリーチへの同行、関係機関との連携、事業運営等について学ぶ12日間の研修を実施した。

「事後研修」では、本研修にて習得した事柄を整理し、研修生間で共有・議論をするためのワークを実施した。また、地域でアウトリーチを普及させるためのプレゼン資料を作成し発表したほか、自身の所属する機関・団体における習得した事柄の活用方法についても模索した。

図表 1 研修参加者所属機関・団体 / 実地研修先 一覧

No.	研修生の所属機関・団体	受入団体(実地研修先)
1	社会福祉法人 知多市社会福祉協議会	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター北斗寮
2	TMC(株)キャリアアップスクール	浜松市精神保健福祉センター
3	特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会	特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや
4	特定非営利活動法人 キャリアデザイナーズ	特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや
5	特定非営利活動法人 信州サポート事業 和実塾	特定非営利活動法人 北陸青少年自立援助センター
6	特定非営利活動法人 ハートツリー	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス

No.	研修生の所属機関・団体	受入団体（実地研修先）
7	特定非営利活動法人 ふらっとコミュニティー	特定非営利活動法人 リスタート
8	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター	特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや
9	特定非営利活動法人 心澄	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス
10	特定非営利活動法人 もりおかユースポート	特定非営利活動法人 リスタート
11	大宜味村教育委員会 （一般社団法人アトリエみらい）	市民団体 多文化共生を考える会ハート 51
12	玉野市教育サポートセンター	山武郡市広域行政組合 山武郡市教育相談センター
13	東京都練馬区立総合教育センター	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス
14	特定非営利活動法人 サポートハウスほほえみ 青少年自立支援ホーム一歩	特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや
15	特定非営利活動法人 いわてパノラマ福祉館	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス
16	特定非営利活動法人 キャリア・ファシリテーター協会	特定非営利活動法人 教育研究所
17	特定非営利活動法人 育て上げネット	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター
18	公益財団法人 さっぽろ市青少年女性活動協会	特定非営利活動法人 北陸青少年自立援助センター
19	児童養護施設 子供の家三美園	特定非営利活動法人 リスタート
20	株式会社穴吹カレッジサービス （かがわ若者サポートステーション）	特定非営利活動法人 ICDS キャリア・デザイン・ サポーターズ

No.	研修生の所属機関・団体	受入団体（実地研修先）
21	発達障害児・者及び家族支援の会シーズ	調布市こころの健康支援センター
22	特定非営利活動法人 ワーカーズコープ	特定非営利活動法人 ICDS キャリア・デザイン・ サポーターズ
23	特定非営利活動法人 コムサロン 21	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター北斗寮
24	川崎市北部児童相談所	特定非営利活動法人 リスタート
25	特定非営利活動法人 ふれあい広場タンポポのはら	山武郡市広域行政組合 山武郡市教育相談センター
26	特定非営利活動法人 暮らしネットワーク北芝	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス
27	特定非営利活動法人 キャリアデザイン研究所	特定非営利活動法人 リスタート
28	神奈川県青少年センター	特定非営利活動法人 ICDS キャリア・デザイン・ サポーターズ

2. 事前研修

期間：平成 25 年 7 月 29 日（月）～ 8 月 2 日（金）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

図表 2 事前研修 研修日程一覧

平成25年度 アウトリーチ(訪問支援)研修 <事前研修> 日程表

於：国立オリンピック記念青少年総合センター

7月29日(月)	
13:30～	開会の辞
13:40～14:40	実地研修受入団体との懇談
14:50～15:15	「平成24年度アウトリーチ(訪問支援)研修受講生 本研修を振り返って」 特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 村瀬 義明
15:30～17:00 全体ワーク	研修生各自の業務と活動紹介(自己紹介)
17:00～	事務連絡
7月30日(火)	
9:30～17:00 演習	「生活・修学・就業支援等における社会資源の活用」 公益財団法人日本生産性本部 社会労働部主任研究員 大山雅嗣
7月31日(水)	
9:30～17:00 演習	「アウトリーチと重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」 特定非営利活動法人NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口仁史
8月1日(木)	
9:30～17:00 演習	「アウトリーチと重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」 特定非営利活動法人NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口仁史
8月2日(金)	
9:30～10:40 講義	「ひきこもり当事者への就労支援」 東洋大学理工学部生体医工学科准教授 小島貴子
11:00～12:30 全体ワーク	実地研修で習得したい事柄の整理と準備
12:30～	閉会の辞

事前研修初日は、実地研修受入団体との情報交換会、平成 24 年度アウトリーチ研修受講生による講演、自己紹介を兼ねた各研修生の取り組み紹介を行った。実地研修受入団体との懇談では、各研修生が実地研修受入団体と初めて対面し、実地研修の予定や求められる姿勢などについてそれぞれで確認し合った。平成 24 年度アウトリーチ研修受講生による講演では、特定非営利活動法人青少年自立援助センターの村瀬義明氏から、実地研修先であった調布市こころの相談センターの紹介及び実地研修の内容、実地研修で学んだことについて話していただいた。各研修生の取り組み紹介では、各自 3 分以内で氏名、所属団体及び所属団体の取り組み、アウトリーチ研修に応募した理由及び意気込みについて紹介を行った。発表者以外の研修生は、発表者の自己紹介を聞く際に、聞いた内容を各自シートに記入するようにした。こうしたワークを通じて、研修生が互いについてより理解しやすくなるようにした。

図表 3 事前研修 各研修生の取り組み紹介の際に使用したシートイメージ

番号	氏名	所属団体	所属団体の取り組み	アウトリーチ研修に応募した理由・意気込み	備考
	山田 太郎	内閣府

2 日目から 5 日目にかけては、専門性を有する講師より講義と演習を実施した。

2 日目は公益財団法人日本生産性本部・社会労働部主任研究員の大山雅嗣氏により、「生活・修学・就業支援等における社会資源の活用」というテーマで講義及びグループワークなどの演習が行われた。

3、4 日目には特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス代表理事の谷口仁史氏に講師として登壇いただき、「アウトリーチと重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」というテーマの元に講義及びグループワークなどの演習が実施された。

5 日目の午前中には、東洋大学理工学部生体医工学科准教授の小島貴子氏に「ひきこもり当事者への就労支援」というテーマでご講演いただいた。引き続き「実地研修で習得したい事柄の整理と準備」というテーマで全体ワークを実施した。研修生には予め事前課題を提出してもらい、当日は課題に記入した内容についてワールドカフェ形式で課題共有及び意見交換を行った。その上で、自分の事前課題を見直して加筆してもらい、

1人ずつ「本研修生で学びたい事柄となりたい自分」について発表いただいた。尚、事前課題の内容は、実地研修に期待すること(研修先でどのようなことをやってみたいか)及びその理由についてこれまでの支援歴から具体的に記述するというものであった。

図表 4 事前研修 事前課題

実地研修に期待すること(研修先でどのようなことをやってみたいか)

事前研修の前に記入、提出	8/2 グループワーク後に記入

の理由について、これまでの支援歴から具体的に述べてください。

事前研修の前に記入、提出	8/2 グループワーク後に記入

「なりたい自分像」(8/2のグループワーク後に記入)

実地研修を通じて私は・・・

尚、事前課題及びワールドカフェ後に記入した内容としては、例えば図表 5 のようであった。事前課題提出時よりも、事前研修でワールドカフェにより他研修生と意見を交わした後のほうが、より実地研修に期待することや理由が明確になった。

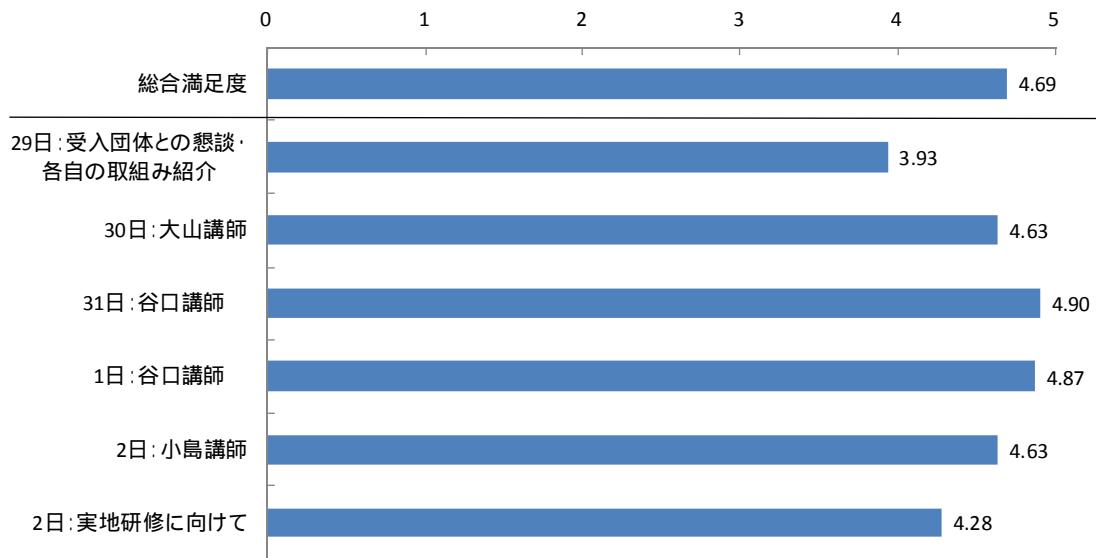
図表 5 事前研修 事前課題及び当日グループワーク後の記入内容（抜粋）

	事前記入	ワールドカフェ後に記入
実地研修に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトリーチの具体的な支援の展開方法、気をつけていること、意識していることなどを学びたい ● 支援者と利用者との関係づくりの工夫を知りたい ● 支援機関との連携をどうしているか知りたい ● 発見から訪問支援につなぐ方法 	<ul style="list-style-type: none"> ● リスクマネジメントの必要性 ● 支援者同士、組織同士のつながり ● 支援者の価値観、人生観を学びたい ● 従来の自組織の方針・方法を見直すきっかけにしたい ● 事前研修で学んだ知識が現場でどのように活かされているか知りたい ● 相談件数が多い中でどのように質の高い支援を提供していくか
の理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 組織でアウトリーチを開始したばかり ● 連携会議を開催しているが連携が深まらない ● 相談・居場所・訪問支援の次の社会参画をどうするか ● 通所できる段階にない若者やその家族を支援したい ● 支援者としての経験が浅く、どのような対象者にどのような関わり方をすれば良いのか不安 ● アウトリーチの経験がない 	<ul style="list-style-type: none"> ● アセスメントの質を高めたい ● 連携の質を高めるには組織としての質の向上も必要 ● 他の施設を見ることで気づきにつながり、柔軟性が養われる ● 引き出しを増やして支援に活かしたい ● 家から出て来られない人たちを支援する仕組みを作りたい ● 支援者として学ぶだけでなく、組織として充実した支援を提供できるシステムを作っていきたい
なりたい自分像	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別支援と地域支援の2つの視点から支援を展開することで地域全体で支援の和を広げたい ● 人や機関をつなぐコーディネート力を向上させたい ● 官民一体の支援を学び、地元モデルを作りたい ● アセスメントをして意図的に関係を作っていけるようになりたい ● 支援者としてだけでなく支援機関の運営者として成長したい ● 「お兄さん・お姉さん」的な、ななめの関係を作りたい ● 多面的な支援のアプローチができるようになりたい 	

また、事前研修の満足度についてのアンケート結果は図表 6 の通りであった。

図表 6 事前研修 アンケート結果

アウトリーチ事前研修(7/29~8/2) 満足度



【事前研修】受入団体との情報交換



【事前研修】講義



3. 実地研修

- ・ 期間：平成 25 年 8 月～平成 26 年 1 月 （図表 7 参照）
- ・ 場所：12 か所の受入団体
- ・ 内容：各受入団体が作成した計画書に基づき、支援現場の実務を通じて、知識や技法の習得、当事者対応、アウトリーチへの同行、関係機関との連携、アウトリーチの組織体制や事業運営等、テキストや座学のみならず OJT に類似した研修を実施した。

研修内容の詳細は、受入団体ごとによって異なるため、図表 8 に記載する。本報告書の「(参考) 実地研修 研修生の報告資料 - p55～」に、各研修生が作成した、実地研修の内容や学んだ事柄を報告した資料も掲載する。

図表 7 実地研修 受入期間

No.	受入団体名	受入期間
1	特定非営利活動法人 ICDS キャリア・デザイン・ サポーターズ	8 月 5 日～8 月 16 日 10 月 21 日～11 月 1 日
2	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス	8 月 19 日～8 月 30 日 11 月 18 日～11 月 29 日
3	市民団体 多文化共生を考える会ハート 51	8 月 26 日～9 月 6 日
4	調布市こころの健康支援センター	9 月 9 日～9 月 14 日、 10 月 22 日～10 月 27 日 (1 回の受入を 2 期間 に分けて実施)
5	特定非営利活動法人 北陸青少年自立援助センター	9 月 16 日～9 月 27 日 10 月 7 日～10 月 18 日
6	山武郡市広域行政組合 山武郡市教育相談センター	9 月 30 日～10 月 11 日
7	特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや	9 月 30 日～10 月 11 日 10 月 21 日～11 月 1 日
8	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター	10 月 21 日～11 月 1 日
9	浜松市精神保健福祉センター	10 月 21 日～11 月 1 日
10	特定非営利活動法人 教育研究所	10 月 28 日～11 月 8 日
11	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 北斗寮	11 月 4 日～11 月 15 日

12	特定非営利活動法人 リスタート	11月18日～11月29日 1月20日～1月31日
----	--------------------	------------------------------

受入期間には、研修の休日(2日間)を含む。

図表 8 実地研修 各受入団体の研修実施概要

受入団体名	特定非営利活動法人 ICDS キャリア・デザイン・ サポーターズ
受入期間	平成 24 年 8 月 5 日～ 8 月 16 日
受入期間	平成 24 年 10 月 21 日～ 11 月 1 日
受入人数	3 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● ICDS 事業内容の説明（岐阜サポステ、名古屋サポステ、若者おいでんクラブ）日々の業務の観察、体験 ● 日々のサークル活動参加及び司会進行（SCT サークル、ワールドカフェ（ワールドマップ形式）、絵本読み聞かせ、ジョイナス学び直し、ソーシャルサークル） ● 訪問支援への同行 ● 相談支援ロールプレイ、訪問支援ロールプレイによる演習 ● 高山サテライトでのレクレーション活動への参加 ● キャリア育成プログラムの体験 ● 学び直し支援の体験 ● 面接陪席

受入団体名	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・ フェイス
受入期間	平成 25 年 8 月 19 日～ 8 月 30 日
受入期間	平成 25 年 11 月 18 日～ 11 月 29 日
受入人数	5 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 法人概要（基本理念、運営方針、組織体制）各事業の理解 ● 生活困窮者支援・インテーク・支援記録の書き方・危機管理・キャリア支援についての講義 ● セミナー（学習・料理・農業等）への参加 ● アウトリーチ（訪問支援）同行 ● さが若者サポートステーションのプログラムへの参加（農業体験・巡回図書） ● たけお若者サポートステーションの見学 ● 関係機関への訪問同行 ● 配置事業に関する職員研修への参加

受入団体名	市民団体 多文化共生を考える会ハート 51
受入期間	平成 25 年 8 月 26 日 ~ 9 月 6 日
受入人数	1 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 団体の活動理解、外国人籍の若者を取り巻く環境についての理解 ● ブラジル人学校「ガリレオ」、「イノヴェ学園」への訪問、見学 ● 施設で働く日本人スタッフへの聴き取りに同席 ● アウトリーチの対象者の状況、状態理解 ● アウトリーチへの同行、対象者への聞き取り ● 山梨県内の外国人対象支援施設、福祉関係施設、サポステ等への訪問 ● 生活支援、食糧支援活動での家庭訪問に同席 ● 国勢調査等の統計データの活用法について

受入団体名	調布市こころの健康支援センター
受入期間	平成 25 年 9 月 9 日 ~ 9 月 14 日、平成 25 年 10 月 22 日 ~ 10 月 27 日
受入人数	1 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● グループワーク ● アウトリーチ ● グループ SST ● デイルームでの支援 ● 家族支援 ● 家族学習会 ● 就労ミーティング ● 地域交流事業

受入団体名	特定非営利活動法人 北陸青少年自立援助センター
受入期間	平成 25 年 9 月 16 日 ~ 9 月 27 日
受入期間	平成 25 年 10 月 7 日 ~ 10 月 18 日
受入人数	2 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトリーチ（訪問支援）同行 ● サポートステーションPR（高校訪問）同行 ● 共同生活での効果、目的の理解（代表、スタッフへの聞き取り） ● 入寮者への聞き取り（入寮して変化したこと、今後の方向等） ● プログラム（農作業、スポーツ活動等）の参加 ● 他施設との交流事業への参加

受入団体名	山武郡市広域行政組合 山武郡市教育相談センター
受入期間	平成 25 年 9 月 30 日 ~ 10 月 11 日
受入人数	2 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 山武地域における不登校児童生徒に対するサポート体制 ● 不登校児童生徒に対する訪問相談支援の仕組みやその方法 ● 訪問支援の方法・留意点についての事例を交えたレクチャー ● 訪問への同行 ● 教育相談センターが有する 4 つの適応指導教室での不登校児童生徒や各教室指導員との交流 ● 各教室でそれぞれ培われてきた方法の理解 ● 指導員としての心構えや信念についての理解 ● 事例検討会への参加

受入団体名	特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや
受入期間	平成 25 年 9 月 30 日 ~ 10 月 11 日
受入期間	平成 25 年 10 月 21 日 ~ 11 月 1 日
受入人数	4 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● ピアサポートネットしづやの団体概要、スタッフやピアサポーターの状況 ● 利用者や家族の方々への支援の理解 ● ピアサポートネットしづやのアウトリーチの考え方についての理解 ● ピアサポートとピアサポーターの役割について ● アウトリーチについてのロールプレイ、意見交換 ● 地域のネットワークづくりについて ● 家族セミナーへの参加 ● 研修・会議の見学

受入団体名	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター
受入期間	平成 25 年 9 月 30 日 ~ 10 月 11 日
受入人数	1 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 座学による就労・居場所・訪問支援演習 ● 訪問支援実習（ロールプレイ） ● 利用者とのコミュニケーション ● 寮生との行動（寮内外の施設清掃、文化祭準備、労働体験同行）

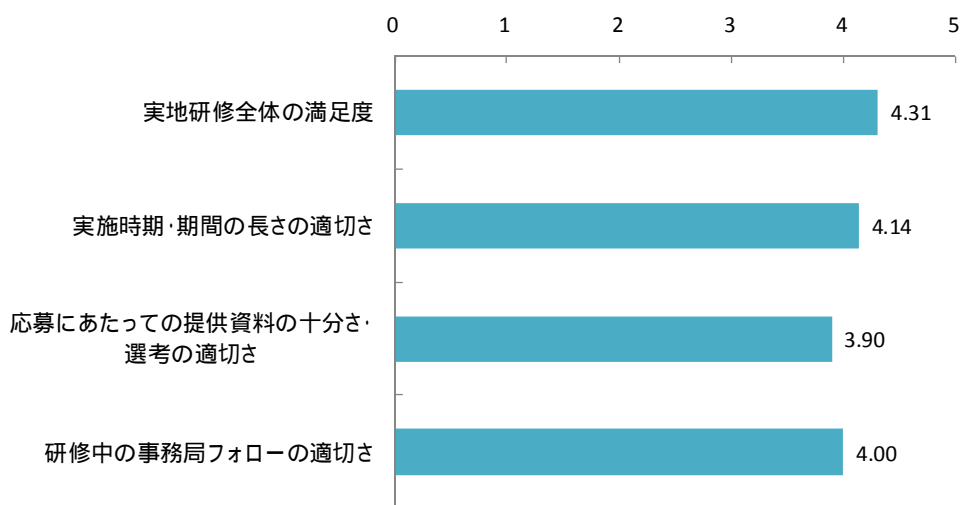
受入団体名	浜松市精神保健福祉センター
受入期間	平成 25 年 10 月 21 日～11 月 1 日
受入人数	1 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共、民間の精神福祉関係機関の 14 施設見学(活動内容等の説明・支援活動参加、就業支援やサポステなどの支援者より運営の説明) ● 公共、民間による各ミーティング・勉強会・講演会「パニック障害」参加 ● 浜松市精神福祉審議会の傍聴 ● FM ハロー「いのちの手紙」収録見学 ● アウトリーチ実地研修参加「ひきこもり相談事業所こだま」、「精神相談支援事業所ほくえん、ひだまり」

受入団体名	特定非営利活動法人 教育研究所
受入期間	平成 25 年 10 月 28 日～11 月 8 日
受入人数	1 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 宇奈月自立塾で塾生との共同生活 ● 不登校・ひきこもり状況の理解と支援の進め方について講義 ● 不登校・ひきこもり・家庭内暴力等経験者からの体験談 ● スポーツ活動参加(地域の社会資源との交流試合など) ● 若者就労に協力企業訪問と連携の実際 ● 市役所・医療機関などとの連携、関係づくりなどの研修のため同行 ● サポートステーションの企画に参加 ● ケースワーカーとのケース会議に同席

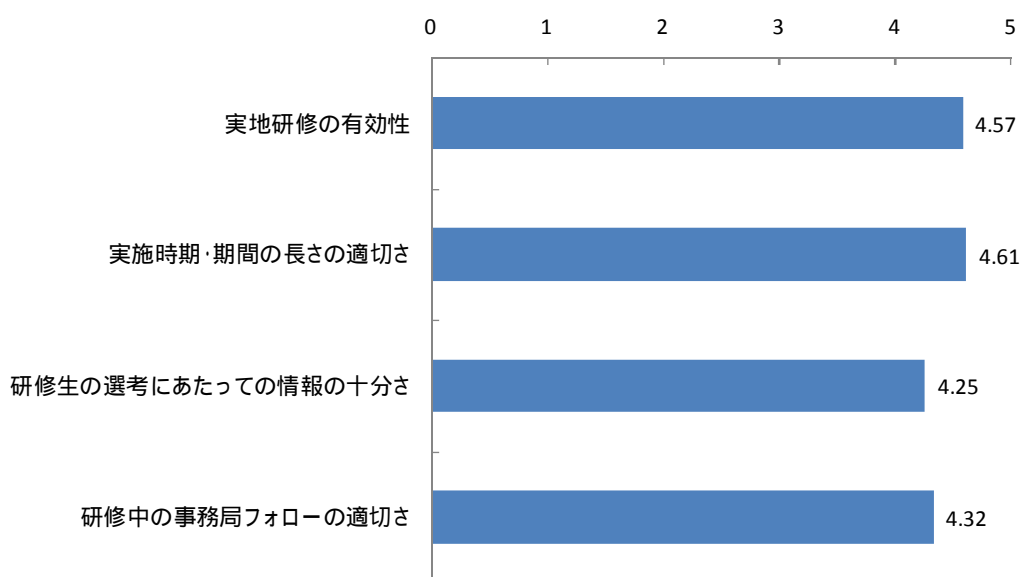
受入団体名	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター北斗寮
受入期間	平成 25 年 11 月 4 日 ~ 11 月 15 日
受入人数	2 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO 法人青少年自立援助センター北斗寮の取り組む事業概要の説明 ● アウトリーチ講義とロールプレイ ● アウトリーチの現場体験 ● アウトリーチの事例検討 ● 北斗寮のプログラム（対人関係作り・自己表現・ソフトボール）に参加 ● 北斗寮の社会体験（リサイクル資源回収・焼き鳥屋台準備・ハウスクリーニング・綿プロジェクト）に参加 ● 若者サポートステーションの居場所対応 ● 若者サポートステーションのプログラム（朝活）に参加 ● 家族教室の参加

受入団体名	特定非営利活動法人 リスタート
受入期間	平成 25 年 11 月 18 日 ~ 11 月 29 日
受入期間	平成 26 年 1 月 20 日 ~ 1 月 31 日
受入人数	5 名
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動概要・組織の理解 ● 地域若者サポートステーション 3 ヶ所（岡山・倉敷・津山）のプログラム（就労支援・職場体験・ボランティア活動等）への参加 ● 就職支援セミナー「自己理解・他者理解」、「コミュニケーション?」、「ことばで遊ぼう」発声練習、好感度を上げるしゃべり方 ● 若年無業者集中訓練型プログラム事業施設見学 ● 岡山市こころの健康センター：ひきこもり対策、一次アセスメント、相談内容について ● ひきこもり地域支援センター：事業内容について ● ひきこもり経験者とのディスカッション ● アウトリーチ同行訪問

図表 9 実地研修アンケート結果（研修生）



図表 10 実地研修アンケート結果（受入団体）



【実地研修】研修の様子

【相談支援職員セミナーの様子】



【来所相談のロールプレイの様子】



【プログラム参加の様子】



4. 事後研修

- ・ 期間：平成 26 年 2 月 17 日（月）～ 19 日（水）（2 泊 3 日）
- ・ 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

図表 11 事後研修 研修日程一覧

タイムライン		実施内容
2/17(月)	13:30	開会挨拶(内閣府)
	13:45～15:30	各研修生より研修報告(12名) (1名つき発表8分(質疑応答含む)を想定)
	15:30～15:40	休憩
	15:40～17:25	各研修生より研修報告(12名) (1名つき発表8分(質疑応答含む)を想定)
	17:25～17:35	休憩
	17:35～18:15	各研修生より研修報告(4名) (1名つき発表8分(質疑応答含む)を想定)
	18:15～18:30	事務連絡
2/18(火)	9:30～12:00	班別討論(実地研修の省察と 研修成果共有を図るグループワーク)
	13:00～17:30	班別討論(実地研修の省察と 研修成果共有を図るグループワーク)
2/19(水)	9:30～11:30	グループワーク作業報告(各班プレゼン)
	11:30～12:15	講演
	12:20～12:30	閉会挨拶(内閣府)

事後研修の方向性は、大きく以下の3つであった。

研修を通じて学んだ事柄の整理と共有

学んだ事柄を踏まえた実践

所属機関・団体で本研修生課を共有し、地域でアウトリーチの支援手法をさらに普及させるための活動準備

そのため、この3つの方向性を踏まえた構成で事後研修を実施した。

1日目には、各研修生より実地研修の報告を行った。各自実地研修終了後にパワーポイントで作成した、「実地研修で学んだこと」をテーマとした報告資料を用いての発表であつ

た。

2日目は、3つの方向性に基づき、図表 12 のようなスケジュールで実施した。

図表 12 事後研修 2日目のスケジュール

タイムライン	検討内容
2/18 (火) 9:30～11:15頃 (休憩含む)	<p>【整理と共有】</p> <p>以下の3点について個人で振り返りワークシートに記入、グループで共有を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> •アウトリーチ(訪問支援)に求められるスキル •受入団体の事業運営(支援メニュー等)や組織体制から学んだ事柄 •受入団体のリファ・連携、ネットワーク形成、社会資源の活用への取組から学んだ事柄
11:15～14:25頃 (お昼休み含む)	<p>【実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> •訪問支援教材ビデオの鑑賞 •気づいたこと・感想などを個人でワークシートに記入 •感想などの共有、ロールプレイ(グループワーク)
14:25～17:30頃 (休憩含む)	<p>【アウトリーチを地域にさらに普及させるための取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> •本研修で学んだ事柄を所属機関・団体にどのように活用しているか(したいか)について個人でワークシートに記入、グループで共有を実施 •アウトリーチ支援について説明したい対象と、テーマを決定(グループワーク) •その相手にアウトリーチ支援について理解を深めてもらうためのプレゼンを検討、作成(グループワーク)

「整理と共有」では、「アウトリーチ(訪問支援)に求められるスキル」、「受入団体の事業運営(支援メニュー等)や組織体制から学んだ事柄」、「受入団体のリファ・連携、ネットワーク形成、社会資源の活用への取組から学んだ事柄」のそれぞれについて、各自で

ワークシートに記入した後にグループで共有を行った。「アウトリーチ(訪問支援)に求められるスキル」については、アウトリーチに求められると思われるスキルを記入し、本研修でより深めることができたものには を付けた上で、そのスキルが求められると考えられる理由や、そのスキルに関する具体的な事柄やエピソードを記入した。「受入団体の事業運営(支援メニュー等)や組織体制から学んだ事柄」、「受入団体のリファ・連携、ネットワーク形成、社会資源の活用への取組から学んだ事柄」については、それぞれに関して学んだ事柄や気づきを得た事柄を記入し、具体的な取り組みやそのエピソードについても記入した。

図表 13 事後研修 整理と共有のためのワークシート（「アウトリーチ（訪問支援）に求められるスキル」）

#	アウトリーチ(訪問支援)に求められるスキル	本研修でより深めることができた(を付ける)	求められると考えられる理由	具体的な事柄やエピソード
例	当事者のペースに併せた伴走型支援		ひきこり状態の当事者において、すぐに外出等の活動が困難な場合や、訪問支援事態が本人に大きな負担となる場合がある。本人の状態を理解し、適したペースで支援を実施するため。	私の所属先において、伴走型支援が当事者への負担が少ないと感じている。
例	医療的側面(発達障害・精神疾患等)からの見立て		ひきこり状態の当事者には、精神疾患等の疑われるケースが存在する。円滑に医療機関等へ誘導し、状態を複雑化しないため。また、医療機関での適切な見立てを行うため。	受入団体の支援事例において、医療機関等へ誘導し、精神疾患の診断が付き治療を開始。医療機関の治療と受入団体の参加型プログラムを平行的に利用し、回復に至ったケースがあった。
1				
2				
3				
4				
5				

図表 14 事後研修 整理と共有のためのワークシート（受入団体の事業運営（支援メニュー等）や組織体制から学んだ事柄）」

#	受入団体の事業運営や組織体制について学んだ事柄(気づき等)	具体的な取組やそのエピソード
例	ピアサポーターを活用した事業の運営	居場所事業に、当事者経験のあるピアサポーターを活用していた。当事者の社会参加への不安に共感できる存在となりサポートしていた。ピアサポーター自身も社会に参加できる場となっていた。
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		

図表 15 事後研修 整理と共有のためのワークシート(「受入団体のリファ - ・連携、ネットワーク形成、社会資源の活用への取組から学んだ事柄」)

#	受入団体の上記取組から学んだ事柄・気づきを得た事柄	具体的な取組やそのエピソード
例	当事者(ひきこもり状態)及び当事者家庭の発見のための連携	ひきこもり状態の当事者においては、自ら相談機関へ出向くことが困難な場合がある。受入団体では、電話・メール等の相談機関と連携を図り、当事者や当事者家庭の発見のためにネットワークを形成していた。
例	訪問支援から通所型支援への円滑な	訪問支援により当事者が外出等の展開が臨める段階で、通所型施設へ誘導を促す際は、通所施設職員者と当事者が顔合わせできる機会として共に訪問(承諾の上)し、通所への不安を解消できるよう取り組んでいた。
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		

「実践」では、まずひきこもり訪問支援教材ビデオ¹を鑑賞した。鑑賞中・鑑賞後に気づいた事柄などを個人でワークシートに記入し、グループで共有を行った。ワークシートはビデオのストーリーの展開に合わせて、「親との面談時」、「訪問時」、「当事者との対面時」、「誘導段階」の項目に分かれており、それぞれの項目につき、「場面ごとに何がなされていたか」、「発見・気づき」、「自身であればどのように対応するか」を記入した。また、全体を通じた所見・感想・印象等も併せて記入した。

図表 16 事後研修 ビデオ鑑賞中・鑑賞後に記入したワークシート

	映像の場面ごとの印象や映像ではどのような対応だったか(何がなされていたか)	映像から得られた発見・気づき(受入団体・所属機関・団体と違う点など)	自身であればどのように対応するか
親との面談時			
訪問時			
当事者との対面時			
誘導段階			
全体を通じた所見・感想・印象等			

ワークシートの内容を共有し、改めて自身や他の研修生のアウトリーチに関する場面ごとの対応を確認した上で、ロールプレイングを実施した。4人グループの中で2人ずつのペアを作り、予め用意しておいた4つのケースの中から2つを選択して、ペアの中で支援者役・当事者役に分かれて1ケースにつき約2分間のロールプレイングを行った。その際に、グループ内の片方のペアはもう片方のペアのロールプレイングを見て、「良いと思った点」「改善すればもっと良くなる点」の観点からフィードバックを行った。

¹ ひきこもり訪問支援教材ビデオは、日本の「ひきこもり」に関心と問題意識を寄せた英国人監督が撮影した映画『扉のむこう』の一部を抜粋し約25分間の映像にしたもので、訪問支援の導入期から誘導段階までを流れとして示し、過程一連のイメージを抱くための教材としている。

ケース					
氏名	村山	性別	男性 女性	年齢	19
兄弟姉妹	同居 別居				
【家族関係図】			【通院・服薬・症状等】		
~~~~~ - ~~~~~ ~~~~~ -			なし		
自傷行為	有・無 ( )		暴力行為	有・無 ( )	
【来所経緯(外部での相談歴、紹介元)】					
母が来所(父仕事の為来所できず)。息子or娘について相談したいと。当機関・団体 については、別件で役所に行った際に、ラックに置いてあったチラシをたまたま見つけ知った。					
【来所目的(主訴)】					
高校卒業後にIT分野系専門学校( 専門学校)へ進学するも、1学年の夏前に通学なくなり(約8か月前)、退学。					
【現在の生活】					
生活リズムはやや乱れている。図書館や買い物等の外出はする。友人等の交流はなさそう。(以前はあった) 家族との会話はある。自分の現状に負い目を感じていることもあり、家事手伝いはなんでもしてくれるとのこと。					
【保護者・関係者の認識】					
退学について、勉強についていけず、分野も自分に合っていなかった。進路選択を後悔していると。通学しなくなった直後にアルバイトを始めたが、体育会系的な雰囲気合わず、すぐにやめてしまう。					
【今後についての要望(保護者)】					
本人の将来が不安。まずはアルバイトかなにかしてほしい。保護者より「一度相談へ行ってみたら」と当機関・団体のチラシを渡したが、本人にアクションはなかった。					
【所見(本人のエピソードや気になる様子、言動等も含め)】					
保護者から本人へ今後について尋ねると黙ってしまう。何かしなくてはいけない(行動を起こさねばならない)という気持ちはありそうだが、きっかけを掴めていない様子と、保護者。自分自身で活動を起こせる状態になるにはきっかけが必要な印象とのこと。					
小・中・高と、友人はいた。どちらかという、大人しいタイプだが、社交性が全く乏しいわけではなかった					
【支援の方向性・対応方針(見立ても含めて)】					
団体・機関内で協議(ケースミーティング)。機関・団体内で実施している就労支援系のプログラム(各講座・セミナーや仕事体験等)に促すべく、訪問支援を実施。本人と関係性を構築した上で、円滑に促す方向。本人の意思・状態によっては、すぐに就労支援系プログラムではなく、参加に負担のかからない支援から促すことも視野に検討。保護者もその旨同意。事前に保護者から「 といった人が来るよ～」程度の説明はしてもらう。					
【備考】 ロールプレイを実施する上でのシチュエーション					
訪問1回目。自宅に訪問し、本人の部屋で会話。本人、不安と緊張が強い印象。訪問支援者の質問に答える程度から会話が始まる。言葉使い(敬語)や会話のキャッチボールはできる。現在の状況ではいけないという自覚は感じている。今後について、まずは「アルバイトかなにかでしようか」と考えている。機関・団体内で実施している就労支援系のプログラムについて、こういったものが不安がある印象。					

ケース					
氏名	丸戸	性別	男性・女性	年齢	17
兄弟姉妹			同居・別居		
【家族関係図】			【通院・服薬・症状等】		
~~~~~ ~~~~~ ~~~~~			なし		
自傷行為	有・無 ()		暴力行為	有・無 ()	
【来所経緯(外部での相談歴、紹介元)】 保護者(父・母)が来所。息子or娘について相談したいと。当機関・団体については、高校の教員よりチラシをいただいた。					
【来所目的(主訴)】 高校を不登校状態で退学(1学年から2学年へ進級する3月末にて)。出席日数が不足し進級できなかった。 現在は、ほぼひきこもり状態。					
【現在の生活】 月に1回程、親と同伴で買い物等に外出する。それ以外の外出はない。生活リズムは乱れていない。					
【保護者・関係者の認識】 不登校状態となった経緯について、はっきりしないと。いじめ等はなかったように思う。現在も何人かの友人とは携帯で連絡を取っている。本人と今後について話しをしておらず、様子を見ている状態とのこと。					
【今後についての要望(保護者)】 本人の将来が不安。ただ、すぐに高校へ復学しても、また退学しようと思う。復学以外も含めて、今後の方向性を広い視点で見出してほしい。					
【所見(本人のエピソードや気になる様子、言動等も含め)】 保護者より、本人は人見知りで内気な性格。慣れていない場所にひとりで行くのは、負担が大きそうとのこと。 自宅ではテレビや漫画、読書をしたり、携帯電話で動画(アニメ)を見ている。					
【支援の方向性・対応方針(見立ても含めて)】 団体・機関内で協議(ケースミーティング)。 訪問支援を実施し、本人と関係性を構築しつつ、本人の見立てを行う。一定の関係性・見立てができた後、本人と今後の方向性について模索する(居場所事業や他機関へのリファ、通信制高校への復学等の方向性を定めた上で時々会う程度の伴走支援(状況確認))。保護者もその旨同意。 事前に保護者から「 といった人が来るよ～」程度の説明はしてもらう。					
【備考】 ロールプレイを実施する上でのシチュエーション 訪問1回目。 自宅に訪問し、本人の自室で会話。本人、とても緊張している様子。本人、内気かつ真面目な印象。支援者の質問に答える程度から会話が始まる。言葉使いや会話のキャッチボールはできる。今後について、これといった希望はなさそう。受け身なタイプ。					

ケース					
氏名	島津	性別	男性 / 女性	年齢	20
兄弟姉妹			同居 / 別居		
【家族関係図】			【通院・服薬・症状等】		
~~~~~ -			なし		
~~~~~ -					
自傷行為	有・無 ()		暴力行為	有・無 ()	
【来所経緯(外部での相談歴、紹介元)】 保護者(父・母)が来所。息子or娘について相談したいと。当 については、行政広報誌紙の記事で知った。					
【来所目的(主訴)】 高校卒業後、大学進学する為に受験浪人。19歳の時に複数の大学を受験するも不合格(難易度の高い大学が中心だった)。本人、自信をなくした様子で、勉強はせず、無気力な状態。					
【現在の生活】 生活は不規則で昼夜逆転。ほとんど外出しないが、深夜にコンビニへ行くことはある。					
【保護者・関係者の認識】 保護者から本人へ今後について話すも、本人は黙ってしまう。再度、受験する気持ちはなさそう。					
【今後についての要望(保護者)】 本人の将来が不安。過去、不登校経験等はなく、友人もいた(今は連絡を取っていない様子)。社会性はあると思うので、何かしらをしてほしい。					
【所見(本人のエピソードや気になる様子、言動等も含め)】 自宅では、パソコンでゲームかなにかをしている。 保護者と不仲ではないが、あまり会話はしないとのこと。 保護者より一度「こういう所(当団体・機関)があるから言ってみたら」と本人へ広報誌とチラシを見せたが、「自分は何行っても意味ないよ。どうせ自分はダメな人間だから」と、受け取らず。 全てをなげやりになっている印象とのこと。					
【支援の方向性・対応方針(見立ても含めて)】 団体・機関内で協議(ケースミーティング)。 訪問支援を実施し、本人と関係性を構築しつつ、本人の見立てを行う。一定の関係性・見立てができた後、本人と今後の方向について模索する(居場所事業や他機関へのリファ-、再受験等の方向性を定めた上で時々会う程度の伴走支援(状況確認))。保護者もその旨同意。 事前に保護者から支援職員の訪問については説明できなかった。(ただ、こうした相談機関があり、保護者が促している認知はある)					
【備考】 ロールプレイを実施する上でのシチュエーション 訪問1回目。 自宅に訪問し、本人の部屋で会話。本人は俯きがち。不安や緊張、若干の警戒もある印象。支援者の質問に答える程度から会話が始まる。言葉使いや会話のキャッチボールはできる。本人、「自分はダメな人間だ」「なにをしてもダメだ」と自己肯定感が低い。また、会話も頭が良く(知的に高く)、理論的に話しをしてくる場合もある。					

「アウトリーチをさらに地域で普及させるための活動準備」では、まずは「本研修で学んだ事柄を所属機関・団体にどのように活用しているか(できるか)」について個人で検討しワークシートに記入しグループで共有を行った。ワークシートには「本研修を通じて学んだ事柄を活用している(今後活用できる)内容」、「実施の有無」、「内容の詳細」、「実施に伴う課題」を記入した。

その上で、本研修で学んだ事柄を所属機関・団体に共有し、アウトリーチをさらに地域で普及させるための活動準備として、アウトリーチ支援について説明したい対象とテーマをグループで設定し、説明のためのプレゼン資料を作成した。説明をする想定の対象については組織内・組織外どちらでも構わない、とした。また、資料作成はパワーポイントで行い、本研修終了後に実際に各研修性が持ち帰って活用できるようにした。

図表 18 事後研修 ワークシート(「本研修で学んだ事柄を所属機関・団体にどのように活用しているか(できるか)」)

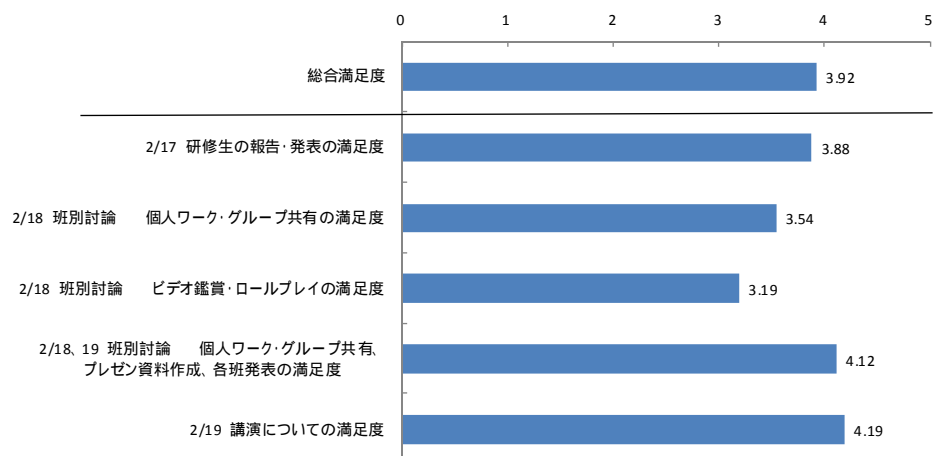
#	本研修を通じて学んだ事柄を活用している(今後できる)内容	実施の有無(をつける)	内容の詳細	実施に伴う課題
例	見守り支援の強化		受入団体は見守り支援に力を入れていた。進路決定等から見守り段階に移行した当事者へ、定期的な連絡を取り、現状の確認を行う(近況程度)。また、本人の負担とならないような確認とする。支援導入前の状態に戻っているようならば、支援再開について検討する。	事前に状況確認をする連絡の了承を得る
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

3日目には、各グループが2日目に作成したアウトリーチの説明資料の発表を行った。また最後に、特定非営利活動法人青少年自立援助センターの工藤定次理事長に、訪問支援・若者支援に臨む次世代への叱咤激励・エールとなるようなご講演を実施いただいて、事後研修を終了した。

尚、事後研修の満足度アンケートの結果は、図表 19 の通りであった。

図表 19 事後研修 アンケート

アウトリーチ事後研修(2/17~2/19) 満足度



【事後研修】ロールプレイング



【実地研修】ロールプレイング



【事後研修】各班プレゼン

